

P. ardisiifolia Hayata, Icon. Pl. Formos. 5: 65 (1915) & 9: 39 (1920). Kanehira, l.c. 263, fig. 208 (1936).

P. serrulata Lindley f. *ardisiifolia* (Hayata) Li in Lloydia 14: 234 (1951); Woody Fl. Taiwan 280 (1963). Liu, l.c. 339, fig. 373 (1960). Shimizu in Act. Phyt. Geob. 21: 19 (1964). Liu & Su in Fl. Taiwan 3: 76 (1977).

P. serrulata var. *ardisiifolia* (Hayata) Kuan ex Kuan & Yü in Fl. Reip. Pop. Sin. 36: 224 (1974).

* * * *

オオカナメモチ (漢名は石楠) の学名は近年 *Photinia serratifolia* (Desf.) Kalkman が用いられている。台湾にはオオカナメモチとその近縁種として *P. ardisiifolia* (マンリョウカマツカ), *P. daphniphylloides* (タロコビワ), *P. lasiopetala* (ケバナカナメモチ) が知られている。オオカナメモチの分布域内でこのような種分化の見られる地域は他に知られていない。1982年以来続けている台湾マメ科植物調査の折に得た標本や台湾と日本国内の標本室で調べてきた結果, *P. ardisiifolia* と *P. lasiopetala* はそれぞれオオカナメモチの変種として認めることができ, *P. daphniphylloides* はオオカナメモチと区別できないとの結論を得た。

□日本植物園協会 (坂崎信之 主編): 日本の植物園 327 pp. 1987. 日本植物園協会 (東大植物園内). 非売品. 日本植物園協会創立20周年記念の出版物である。前半は関係者の記念論文集で, 単なる祝辞や回顧談よりは, 将来の展望を積極的に述べた文章が多く, 参考となる点が少なくない。著者名にふりがなをつけてあるのは非常に有り難く, 他誌も見なっていてほしい。後半は文献目録と年表である。文献目録は協会の会誌や調査報告書の論文目録と20項目にわたる索引である。論文の内容に立ち入って, 解説や研究の行われた植物の和名, 学名がリストされている。年表は日本植物園協会史年表と日本植物園年表の二つがあり。人事や社会情勢にまで触れたたいへん凝ったものである。非売品ではあるが, 一見をおすすめする。 (金井弘夫)

□里見信生: 折々草 175pp. 私費出版 (〒921 金沢市■■■■■). ¥3500 (送料共). 著者の金沢大学定年退官を記念して, 学術論文以外の著述のほとんどを再録したものである。永年にわたる「北陸の植物」の運営の必要に加えて多才な著者のことだから, 植物関係の雑学はもとより, 紋章学や落語にまでわたり, はじめて目にする文も多く, あらためていろいろ参考になる。こういう本は自叙伝のようなものだから, ついでに履歴や系図くらいつけてもよかったのではあるまいか。 (金井弘夫)